

技術士「原子力・放射線部門」の紹介

これまでの技術士の**19**技術部門に原子力や放射線は含まれていなかったが、平成**16**年度から新たに原子力・放射線部門が加わることになった。原子炉関連分野や放射線関連分野で技術士の資格の活用を図っていくことが望まれる。

技術士の試験は、指定試験機関として日本技術士会 (<http://www.engineer.or.jp/>) が指定されていて、技術士第一次試験及び技術士第二次試験を行っている。第二次試験を受けるに当たっては、第一次試験に合格することが義務付けられている。

平成**16**年度技術士第一次試験

技術士第一次試験は全科目択一式で、問題の種類は、基礎科目、適正科目、共通科目、専門科目からなる。試験の程度は、共通科目については**4**年制大学の自然科学系学部の教養教育程度、基礎科目および専門科目については、同学部の専門教育程度とされている。試験の問題の種類と解答時間は表**1**の通りである。受験資格は特にない。平成**16**年度の第一次試験の受付期間は平成**16**年**4**月**26**日から**5**月**14**日までで、試験日は平成**16**年**10**月**11**日である。

平成**15**年度技術士第二次試験

第二次試験は**19**の技術部門と総合技術管理部門がある。第二次試験は各技術部門の技術士となるのに必要な専門的学識及び高度の専門的応用能力を問うためのもので、必須科目と選択科目の**2**科目がある。試験の程度は、科学技術に関する専門的応用の能力を必要とする事項についての計画、研究、設計等の業務に従事した経験が**4**年程度であることを踏まえたものであることとされている。

受験資格は、(1) 技術士第一次試験に合格後、技術士補に登録し、**4**年を超える期間技術士を補助したことがある者。(2) 技術士第一次試験に合格後、技術士補に登録することなく、科学技術に関する専門的応用能力を必要とする事項についての計画、研究、設計、分析、評価又はこれらに関する指導の業務を行う者の監督のもとに当該業務に従事した期間が**4**年を超える者。(3) 受験申込をする時点で、科学技術に関する専門的応用能力を必要とする事項についての計画、研究、設計、分析、試験、評価又はこれらに関する指導の業務に従事した期間が技術士第一次試験合格前の従事期間を含めて**7**年を超える者とされていて、(1)～(3)のそれぞれで、大学院の期間を有する者は**2**年間その期間を短縮することができる。

技術士第二次試験方法は、筆記試験と口頭試験がある。筆記試験について必須科目は択一式と記述式、選択科目は記述式となっている。筆記試験(総合管理部門を除く技術部門)の問題の種類と解答時間は表**2**の通りである。口頭試験は筆記試験合格者のみに行われ、試問事項と試問時間は表**3**の通りである。平成**16**年

度の第二次試験の受付は平成 15 年 4 月 1 日から 4 月 12 日までで、試験日は、総合管理部門を除く技術部門の筆記試験が平成 16 年 8 月 8 日で、口頭試問は、平成 16 年 12 月で予め受験者に通知される。

原子力・放射線部門に関する準備状況

原子力学会と保健物理学会は連携して、原子力・放射線部門の技術士の設立に努力してきた。平成 16 年度から原子力・放射線部門の試験が始まることから、模擬試験を作成し原子力学会のホームページ (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/aesj/>) に公開されている。原子力・放射線の技術部門が新たにそうせつされたので、多くの方がチャレンジすることが望まれている。

表 1 一次試験問題の種類と解答時間

問題の種類	解答時間
I 基礎科目：科学技術全般にわたる基礎知識問う問題	1 時間
II 適正科目：技術士法第四章の規定の遵守に関する適正を問う問題	1 時間
III 共通科目（2 科目選択）：技術士補として必要な共通的基礎知識を問う問題	2 時間
IV 専門科目：当該技術部門に係わる基礎知識及び専門知識を問う問題	2 時間

表 2 二次試験問題の種類と解答時間

問題の種類	解答時間
選択科目	3 時間
1 「専門とする事項」に関する専門知識の深さ、技術的体験及び応用能力	
2 「選択科目」に関する一般的専門的知識	4 時間
必須科目	
「技術部門」全般にわたる一般的専門知識	

表 3 口頭試問の試問事項と試問時間

試問事項	試問時間
I 受験者の技術的体験を中心とする経歴の内容と応用能力	30 分
II 必須科目及び選択科目に関する技術士として必要な専門知識及び見識	
III 技術士としての適格性及び一般的知識	